第62回日本透析医学会学術集会・総会AMG発表一覧

今年も、日々の研究成果を第６２回日本透析医学会学会集会・総会において２４演題発表して参りました。

施設名	演者名	演題名
上尾中央総合病院	(医) 兒島　憲一郎	「PAD」
	(医) 野坂　仁也	右上肢の広範な蜂窩織炎による敗血症ショックから救命しえた維持透析患者の一例
	(医) 藤原　信治	アロプリノールによる薬剤性過敏症症候群に急性腎不全を合併し一時的に血液療法を要した一例
	(技) 小澤　正宜	透析室における災害対策アンケートをおこなって
	(技) 長島　弘昂	血液透析後の返血速度が血圧変動に与える影響の検討
	(技) 藤原　未咲	持続緩徐式血液濾過器ヘモフィール1.3Wの膜寿命について
花クリニック	(医) 矢花眞知子	血液透析導入後9年が経過しても無除水透析を施行している1例
白岡中央総合病院	(医) 佐藤　雅勇	スクロオキシ水酸化鉄使用後の臨床経過の検討
津田沼中央総合病院	(技) 橋本　歩	患者監視装置清拭クロス変更による清浄度評価
彩の国東大宮メディカルセンター	(看) 仲間　智恵	透析室で勤務する看護師のキャリア開発～透析看護師ラダーの必要性とその位置づけ～
	(技) 増田　有紗	ルミノール試薬を用いたマンシェットの血液汚染調査
	(技) 室井　大介	埼玉災害時透析　第一ブロック活動報告～第2報～
	(技) 茂呂　隆弘	上尾中央医科グループME研究会災害対策ワーキンググループ活動報告
三郷中央総合病院	(事) 大塚　由美子	透析導入前の患者に対するＭＳＷの介入
伊奈病院	(技) 小森谷恵美	災害による断水時のための給水訓練実施報告
	(技) 関根枝里子	クリーンカプラ使用による清潔度の検証
蓮田一心会病院	(看) 只浦　真弓	看護/終末医療
エイトナインクリニック	(医) 河原崎　千晶	当院での血液透析患者のＢ型肝炎・Ｃ型肝炎マーカーの現状と25年前の比較
	(技) 増田　祐美	オンラインHDF治療を施行している後期高齢者の水分分布とNT-proBNPの関連性について
	(技) 門井　聡	透析患者におけるフットケア指導方法の検討
	(検) 小林　茉由	透析患者における動脈石灰化とＴＢＩとの対比
上尾中央腎クリニック	(看) 山本　加世子	シャント肢痛に対する肩回し手技を統一化して~スタッフのストレスの変化~
西大宮腎クリニック	(看) 日向　久美	知的障害のあるＨＤ患者1例の自己管理支援
桶川腎クリニック	(技) 松嶋　忍	「ベルト電極式骨格筋電気刺激法 (B-SES)によりレストレスレッグス症候群 (RLS)が改善された一症例」

(医)：医師　(技)：臨床工学技士　(看)：看護師　(事)：事務　(検)：臨床検査技師

AMG全透析室紹介

全施設が連携して
透析ライフをサポートいたします。

上尾中央総合病院
所在地 埼玉県上尾市柏座1–10–10
TEL 048–773–1111

八潮中央総合病院
所在地 埼玉県八潮市南川崎８４５
TEL 048–996–1131

白岡中央総合病院
所在地 埼玉県白岡市小久喜938–12
TEL 0480–93–0661

彩の国東大宮メディカルセンター
所在地 埼玉県さいたま市北区土呂町１５２２
TEL 048-665-6111

三郷中央総合病院
所在地 埼玉県三郷市中央４－５－１
TEL 048–953–1321

伊奈病院
所在地 埼玉県北足立郡伊奈町小室9419
TEL 048–721–3692

蓮田一心会病院
所在地 埼玉県蓮田市本町3–17（蓮田駅西口徒歩1分）
TEL 048–764–6411

笛吹中央病院
所在地 山梨県笛吹市石和町四日市場47–1
TEL 055–262–2185

柏厚生総合病院
所在地 千葉県柏市篠籠田617
TEL 04–7145–1111

津田沼中央総合病院
所在地 千葉県習志野市谷津1–9–17
TEL 047–476–5111

千葉愛友会記念病院
所在地 千葉県流山市鰭ヶ崎1–1
TEL 04–7159–1611

勝田病院
所在地 茨城県ひたちなか市中根5125–2
TEL 029–272–5184

船橋総合病院
所在地 千葉県船橋市北本町1–13–1
TEL 047–425–1151

上尾中央第二病院
所在地 埼玉県上尾市大字地頭方421–1
TEL 048–781–1101

上尾中央総合病院付属 エイトナインクリニック
所在地 埼玉県上尾市柏座1–10–2
TEL 048–772–0089

上尾中央腎クリニック
所在地 埼玉県上尾市原新町１６－４（北上尾駅東口ロータリー内）
TEL 048–779–6060

桶川腎クリニック
所在地 埼玉県桶川市上日出谷644–1
TEL 048–789–5151

西大宮腎クリニック
所在地 埼玉県さいたま市西区指扇3922–1（西大宮駅北口ロータリー内）
TEL 048–621–3811

花クリニック
所在地 神奈川県横浜市金沢区谷津町384金沢文庫京急ビル4F
TEL 045–701–3175

上尾中央医科グループ透析広報誌「たんぽぽ」Vol.5
■編集・発行責任者／AMG協議会 ME担当責任者　遠藤 清文｜〒362–0016 埼玉県上尾市原新町5–10｜TEL.048–779–6060 ■制作／株式会社寿エンタープライズ　平成29年9月26日発行（年1回発行）

上尾中央医科グループ　透析広報誌

たんぽぽ

05
2017 AUTUMN

上尾中央総合病院

花クリニック

上尾中央医科グループ
病院紹介シリーズ

上尾中央総合病院
花クリニック

第62回日本透析医学会学術集会・総会
AMG発表一覧

施設紹介 AMG全透析室紹介

AGEO MEDICAL GROUP

●上尾中央総合病院外観

●エントランス

上尾中央医科グループ
病院紹介シリーズ 09

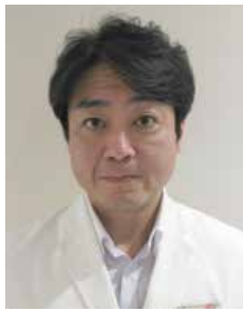
上尾中央総合病院

上尾中央総合病院
副院長 **兒島 憲一郎**

透析広報誌『たんぽぽ』が創刊されて５年になります。『たんぽぽ』ではこれまでに上尾中央医科グループの透析施設の特色や意欲的な取り組みが紹介され、各施設を身近に感じてもらえるのにお役に立てたのではないかと思っております。上尾中央総合病院透析室は2017年1月に新しいB館へ移動し、名称も実際の治療内容を反映させるように血液浄化療法室に変更いたしました。また、4月からは腎臓内科科長が野坂医師へ、副科長が大野医師へと診療体制が変わりましたので今号では二人を中心に当院腎臓内科と血液浄化療法室を紹介させていただきます。上尾中央医科グループには透析療法が可能な施設として14の病院と5のクリニックがあり、約2,500名の患者さんが透析をできるキャパシティーがあります。地域連携や災害対策の重要性が求められる昨今、今まで以上に「顔の見える透析医療連携」を強化し、皆さまのお役に立てるネットワークの構築に尽力いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

●透析室

地域に密着した高度医療を



腎臓内科
科長
野坂 仁也

本年４月より上尾中央総合病院腎臓内科科長を拝命いたしました野坂です。私どもの腎臓内科では、常勤医７名がおもに慢性腎臓病対策に重点をおき、早期診断と適切な治療を行うことで、透析導入の回避と心血管疾患の発症予防を目指しています。図らずも透析療法が必要になってしまった患者さんには、安定した透析療法を提供させていただいております。また病院新棟の竣工に伴い、透析室も血液浄化療法室と名称を変えて新しくなりました。当施設では主に新規の血液透析導入（昨年平成28年度は87例）と他施設で透析中の患者さんが合併症で入院された際の維持透析を行っています。３年程前からはバスキュラーアクセス手術とPTAも当科で行うようになりました（平成28年度はそれぞれ144例と178例）。透析療法以外にも血液吸着療法、血漿交換療法などの各種血液浄化療法も行っており、種々の疾患に対応しています。今後も上尾中央医科グループの基幹病院として、より良い透析療法を提供できるよう、スタッフ一同が一丸となって診療に取り組んで参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

●スタッフ集合

臨床工学技士
科長
青木 智博

血液浄化療法室では、看護師９名、技士１５名、看護補助２名、クラーク２名で勤務しています。血液浄化療法室では入院患者様の血液透析以外にも様々な血液浄化を２４時間コール体制で対応しています。
埼玉では透析での災害対策にも力を入れています。埼玉を7つのブロックに分け、上尾中央総合病院は第２ブロック（鴻巣・北本・桶川・伊奈・上尾）のブロックリーダーとなっています。災害対策の取り組みとして、県内でのMCA無線による情報伝達訓練や、AMGグループ内でのデジタル無線での情報伝達訓練、災害対策ワーキンググループの立ち上げなど災害に対して意識を向上し様々な活動を行っています。グループメリットを生かし患者様に安心してもらえるようこれからも知識や技術の向上に努めてまいります。

●AMG透析連携施設デジタル無線ネットワーク

●埼玉県透析施設MCA無線ネットワーク

血液透析とバスキュラーアクセス

	シャント	非シャント
自己血管	内シャント シャント静脈表在化	動脈表在化 直接穿刺
人工血管 カテーテル	人工血管内シャント 外シャント	非カフ型/カフ型カテーテル 動脈動脈バイパスグラフト

●バスキュラーアクセスの種類と特徴

腎臓内科
副科長 **大野 大**

血液透析導入とバスキュラーアクセスの作製

糖尿病、慢性糸球体腎炎、高血圧、嚢胞腎といった疾病を原因として、当院で血液透析を開始される慢性腎臓病患者は年間80例以上となっています．現在の当院では、その全ての患者さんで内シャントなどのバスキュラーアクセスを，腎臓内科で手術をして作製しています．入院期間を短くするため、また生命予後を改善させるということも考慮して、血液透析を開始する前にバスキュラーアクセス作製手術を受けていただき、可能な限り内シャント造設術を行うこととしています。当院で内シャント造設術を行う場合は3泊4日、血液透析導入のためには1〜2週間の入院期間が必要です。

しかしながら、事前にシャント造設術を施行できずに緊急での血液透析導入となる場合は、非カフ型カテーテルを留置して血液透析を開始する必要があるため、1か月以上の入院期間が必要となります。上肢表在静脈の荒廃や心機能の低下などのため、内シャント造設術が不適切な場合は、人工血管を使用した内シャント造設術、上腕動脈表在化術、カフ型カテーテル留置術といった手術を行います。バスキュラーアクセスは様々な種類があり、それぞれ長所、短所がありますが、慢性腎臓病患者さん個々の日常生活の状況に最も適した、バスキュラーアクセス手術を行っています。

バスキュラーアクセスのトラブル、修復

安定して血液透析を継続していくには、内シャントをはじめとしたバスキュラーアクセスが必要です。しかしながら、内シャントは本来の血液の流れを血液透析が可能となるように動静脈瘻を作製して変更した非生理的なもので、シャント静脈は血液透析を行う度に針で穿刺を繰り返す必要があります。

そのため、血液透析を受けながら生活をする期間が長くなればなるほど、シャント血管の狭窄、閉塞、感染、シャント瘤の形成をきたし、血液透析の際に針が刺さりにくくなる（穿刺困難）、血流が十分に確保できなくなる（脱血不良）、シャントの止血が悪くなる、腕が腫れる（静脈高血圧）といったバスキュラーアクセスのトラブルが多くなってきます。

これらの問題を解決するためには、経皮的シャント血管形成術（シャントPTA：血管の狭窄病変をバルーンカテーテルで拡張する）やシャント再建術など、手術での治療が必要となります。当院では現在、シャントPTA、内シャント造設や再建術、シャント瘤切除術、上腕動脈表在化術、人工血管内シャント造設術、カフ型カテーテル留置術といった、バスキュラーアクセストラブルに対する様々な手術を行っています。

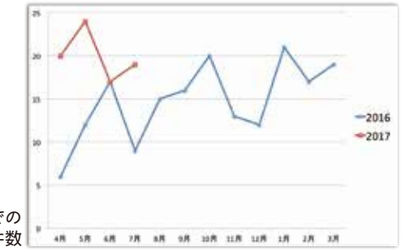
当院でのバスキュラーアクセス手術件数

当院では2016年4月〜2017年3月の間に、内シャント造設術110件（うち再建手術34件）、人工血管内シャント造設術2件、上腕動脈表在化術9件、シャントPTA 178件（延べ）、内シャント血栓除去術4件、カフ型カテーテル留置術19件を実施しました。また、2017年度に入ってシャントPTAは増加の傾向にあり、月20件程となっています。

当院腎臓内科でのバスキュラーアクセス手術件数（2016年度）

手術の種類	件数
内シャント造設術	110（うち再建手術34）
人工血管内シャント造設術	2
上腕動脈表在化術	9
シャントPTA	178（延べ）
内シャント血栓除去術	4
カフ型カテーテル留置術	19

当院でのシャントPTA件数



●当院でのシャント手術（手術室）

●当院でのシャントPTA（放射線科血管撮影室）

●当院でのシャント手術（手術室）

当院での経皮的シャント血管形成術（シャントPTA）

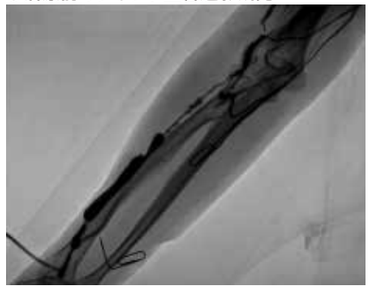
当院でのシャントPTAは、原則的に1泊2日の入院で行っています。入院日にシャント造影検査とシャントPTAを行い、翌日は治療を行なったシャント血管を使用して血液透析が十分にできることを確認し、退院となります。造影剤にアレルギーのある場合には、超音波ガイドでのシャントPTAを行います。退院後は通常通りのクリニック、病院での血液透析となります。残念ながら、シャントPTAでは70%ほどの方に再狭窄（再び血管に狭い部分ができる）が認められますので、シャントPTA治療の1〜3か月後に、再度当院の外来受診をしていただくこととしています。内シャントを維持していくために、繰り返しシャントPTAを行うことが必要になることも稀ではありません。毎月のようにシャントPTAが必要となるような狭窄病変の場合には、シャント再建術など他の手術治療を行うことを考えます。

●人工血管内シャント造設術後

バスキュラーアクセスの管理、定期的な診察、検査

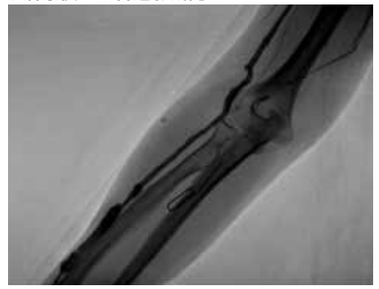
日々十分な血液透析を継続していくためには、内シャントをはじめとしたバスキュラーアクセスが必要不可欠です。内シャントを長持ちさせるには、日常生活では血液透析のない日はシャント肢をよく洗って清潔を保ち、シャント血管の穿刺位置を分散させることによって、シャント狭窄、シャント感染、シャント瘤の形成をしないようにしましょう。シャント狭窄のためにシャントPTAを繰り返し行うことが必要となる場合もありますが、シャント閉塞などで急に血液透析をできなくなることのないように、それぞれの施設の基準に従って、定期的にシャント診察やシャント超音波検査をして、現在使用している内シャント、バスキュラーアクセスを長持ちさせるように大事にしていくことが重要です。

●治療前のシャント血管造影所見



●シャント狭窄病変のバルーン拡張

●治療後の血管造影所見



●花クリニック外観

花クリニックの玄関です。ようこそ、花クリニックへ。扉の向こうに、受付・待合室と食堂の一部が見えています。

上尾中央医科グループ 病院紹介シリーズ 10

花クリニック

花クリニックは、京浜急行線金沢文庫駅東口から徒歩０分、金沢文庫京急ビルの４階にあります。平成18年に開院しました。花クリニック最大の特長は、「急変なし長生き元気の血液透析」の実践にあります。透析中の、症状を伴う処置を要する血圧低下、すなわち透析低血圧の出現頻度は、一般的に20%とされていますが、花クリニックでは文献上世界最低の0.16%(開院から10.5年間の全透析施行回数91052回に対し、透析低血圧出現回数151回)です。透析低血圧を防止していると、無愁訴透析や無除水透析が実施でき、透析困難症や透析後の起立性低血圧は起こらず、下肢も虚血に見舞われません。「急変なし長生き元気の血液透析」の実践の証として自負するところは、超高齢者の男性患者がお二人、認知症なく通院されていたことです。お一人は、92歳から100歳８ヶ月まで、もうお一人は、94歳の時に自らご希望されて花クリニックに転院され、99歳４ヶ月まで通院なさいました。また花クリニックでは、透析患者様の生存率を高め透析合併症を防止するためのオンラインHDFを全ベッドで施行しています。

花クリニックの食堂からの眺めです。鎌倉に通じる六国峠ハイキングコース入口が、緑の中に埋もれています。

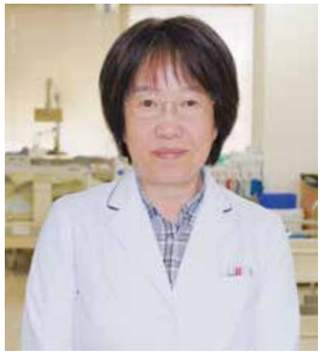
透析室の窓から見える、金沢文庫駅東口周辺の様子です。写真ほぼ中央に東口があります。八景島シーパラダイスのブルーフォールも左方に見えるのですが、残念ながらこの写真には入っていません。

静まり返った透析実施中の透析室です。静かな透析室をお好みの方には、打ってつけです。透析ベッドは、全部で23床あります。

月・水・金は1日3回、火・木・土は1日2回、カンファレンスを行っています。カンファレンスにより、エビデンスを周知し、透析低血圧を防止しています。カンファレンスは、花クリニックのモットーである「急変なし長生き元気の血液透析」に不可欠です。

当院では、高い安定性と安全性を備えた日機装社製の最新透析装置DCS-100NX(オンラインHDF対応)を全ベッドで使用しています。また透析液は、透析液清浄化ガイドラインに基づいた管理を実施し、きれいな透析液を提供しています。

院長 矢花眞知子



院長の矢花眞知子と申します。よろしくお願いいたします。2年前よりクリニック内の最年長者も兼務しております。

臨床工学技士長 野寄勝利

臨床工学技士長の野寄勝利と申します。よろしくお願いいたします。患者様に安心・安全な透析を受けていただけるように、スタッフ一同協力し、業務に取り組んでおります。

クリニックのご案内

住　所	神奈川県横浜市金沢区谷津町384番地 金沢文庫京急ビル4階
電話番号	045−701−3175
休診日	日曜日
院　長	矢花 眞知子
病床数	23床
URL	http://www.hana-clinic.jp
スタッフ	看護師11名、臨床工学技士6名、 看護助手2名、事務2名

透析診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00〜22:00	○		○		○	
8:30〜18:00		○		○		○

●スタッフ集合